

# 2005年12月期中間決算説明資料

2005年8月3日(水)  
株式会社テンアートニ  
(東証マザーズ:3744)



最新のテクノロジーで  
真にユーザ主導といえるソリューションを

Cutting-Edge Java&Linux Enterprise Solutions

# 2005年12月期中間期業績のまとめ

- 2005年12月期中間期は、利益率の高いビジネスを強化した結果、売上高は1,994百万円(前年同期比4.0%増)、売上総利益は629百万円(前年同期比26.0%増)と増収増益となった。
- 販売費および一般管理費は、営業部門、管理部門の増員等により、449百万円(前年同期比36.2%)と増加したものの、売上総利益率の改善により、営業利益、経常利益は増益となった。当中間純利益は減益となったが、前年同中間期に厚生年金基金の代行返上に伴う特別利益27百万円の計上があったため。
- 2005年12月期中間期予想に対して売上高は若干下回ったものの、利益は予想を上回り、順調に推移。

# 2005年12月期 中間期業績の概況

[単位:百万円]

	2004年12月期 中間期実績 (04年1-6月)	2005年12月期 中間期実績 (05年1-6月)	対前年同期 増減率
売上高	1,917	1,994	+4.0%
<Linux関連事業>	<1,457>	<1,505>	+3.3%
<Java関連事業>	<460>	<488>	+6.1%
売上総利益	499	629	+26.0%
営業利益	169	180	+6.2%
経常利益	168	178	+6.2%
当中間期純利益	223	186	-16.5%

# 業績予想の進捗状況

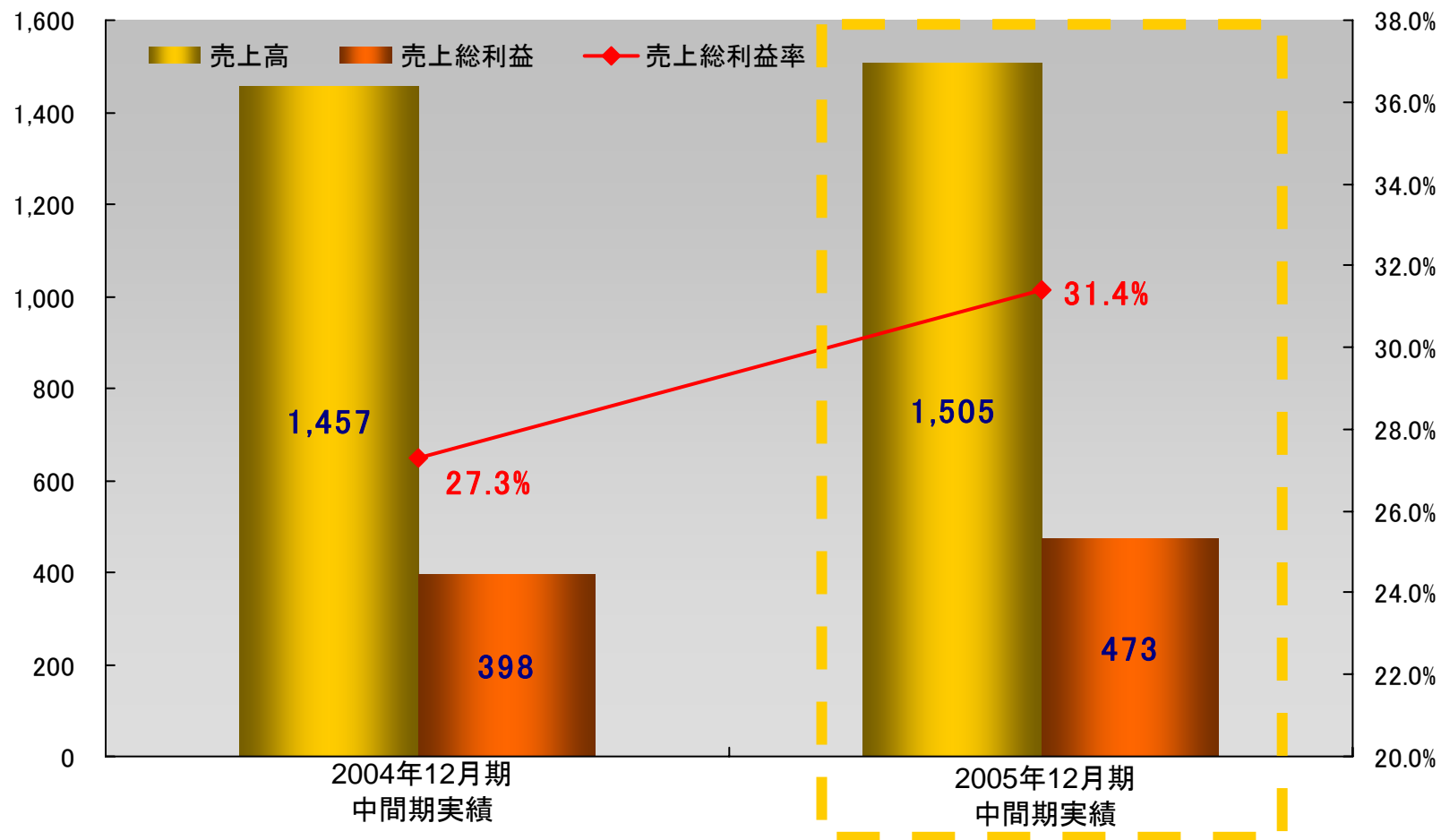
〔単位：百万円〕

	2005年12月期 中間期実績 (05年1－6月)	2005年12月期 中間期予想 (2月2日公表)	進捗率 (%)
売上高	1,994	2,098	95.0%
営業利益	180	149	120.8%
経常利益	178	149	119.5%
当中間期純利益	186	160	116.3%

# 事業別売上高・売上総利益

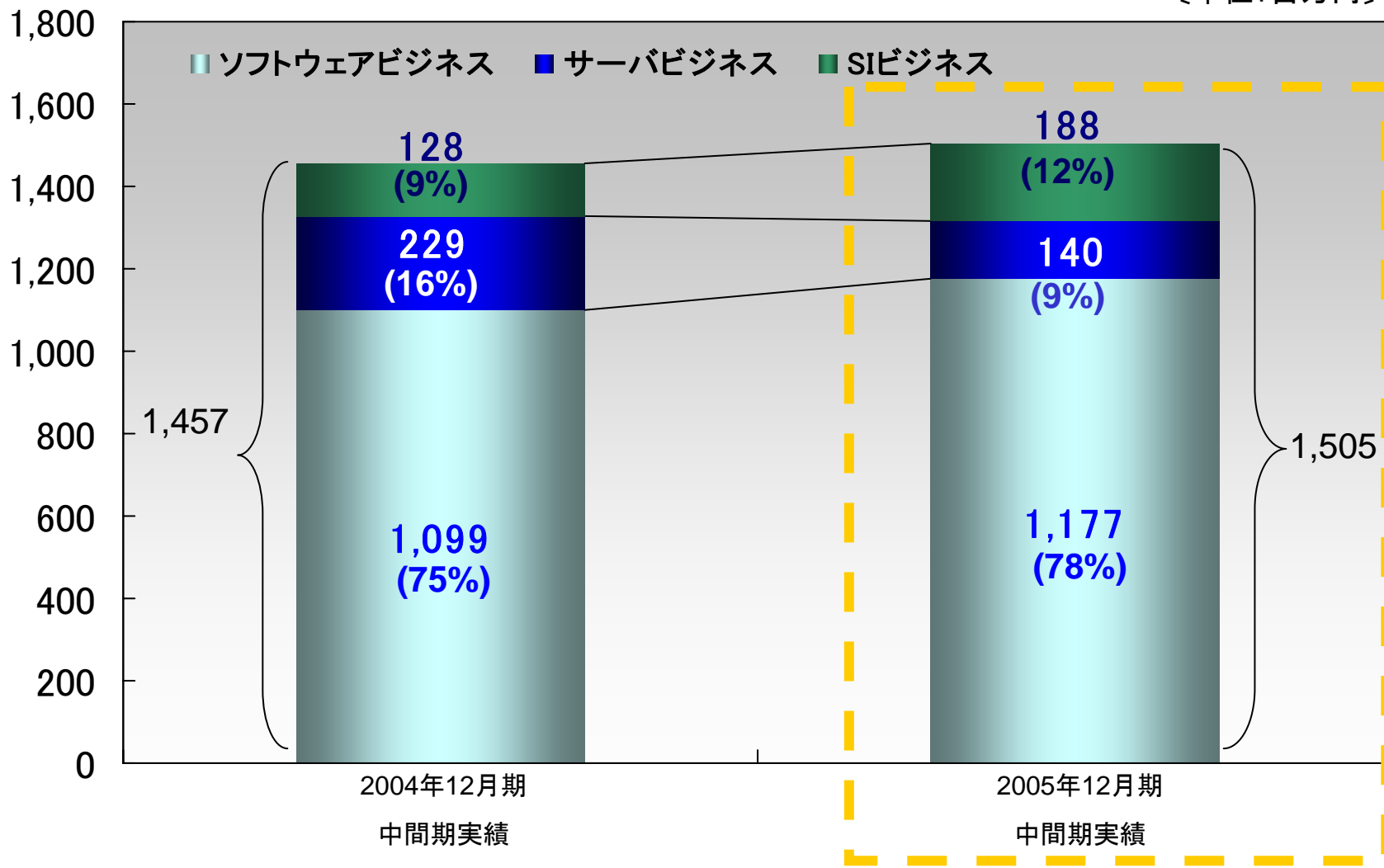
## Linux関連事業

〔単位：百万円〕



# Linux関連事業売上高の内訳

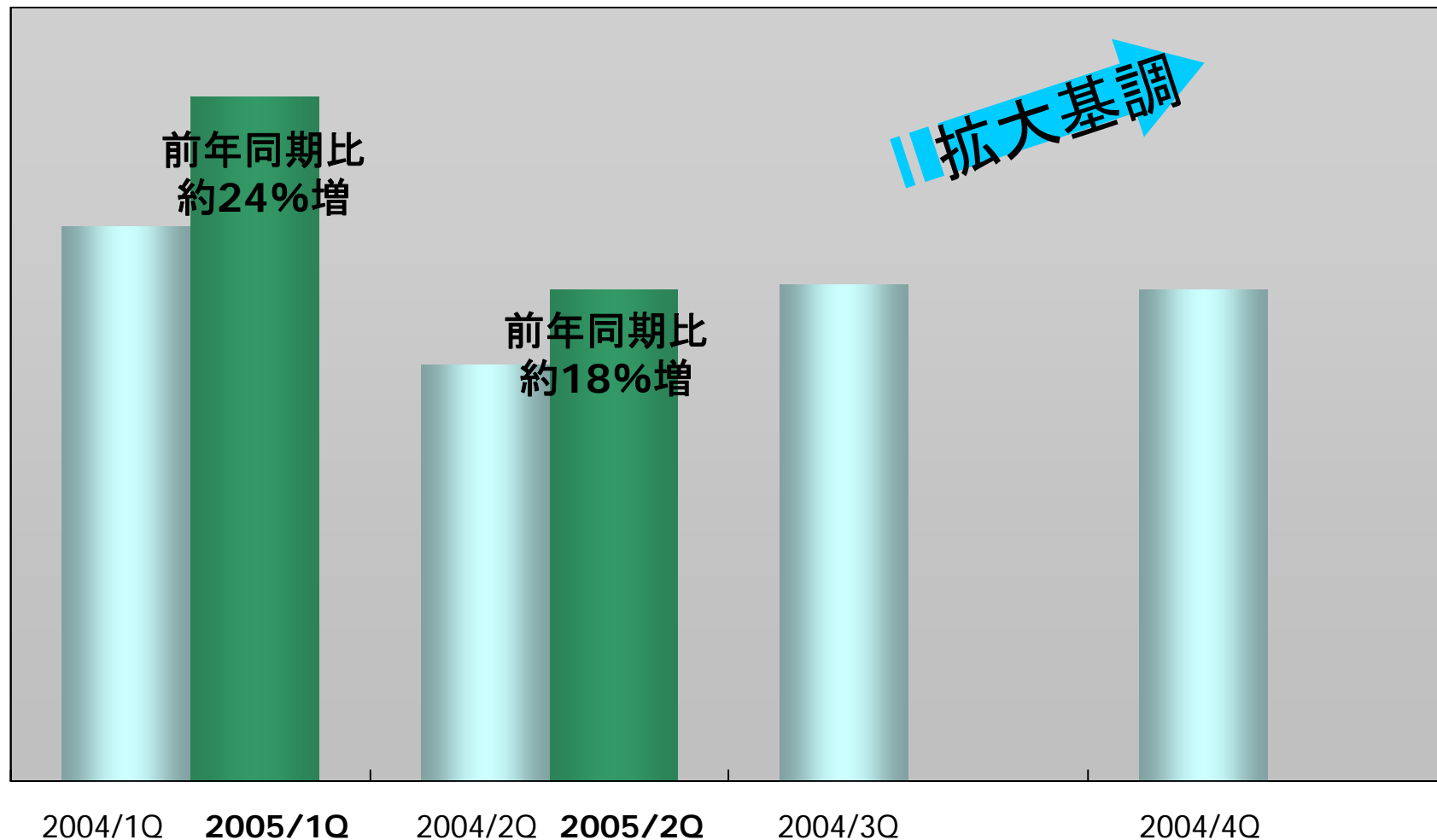
〔単位：百万円〕



# Linux関連事業について

- **ソフトウェアビジネス** — Linux及び関連ソフトウェアの販売  
Linuxの市場拡大により、LifeKeeperが大幅伸長し、Red Hat Enterprise Linuxは単価の安い製品へのシフトがあったものの、販売とサポート契約本数が拡大、結果としてソフトウェアビジネスの売上高は前年同期比7.1%増の増収となった
- **サーバビジネス** — 自社・他社ブランドのサーバ販売  
価格競争が一段と激化し、売上高は前年同期比39.0%の減収となった
- **SIビジネス** — Linux等のシステム構築、コンサルティング、サポート  
企業のLinux導入増大をうけ、サポートサービスを強化したことにより、売上高は前年同期比47.1%の増収となった

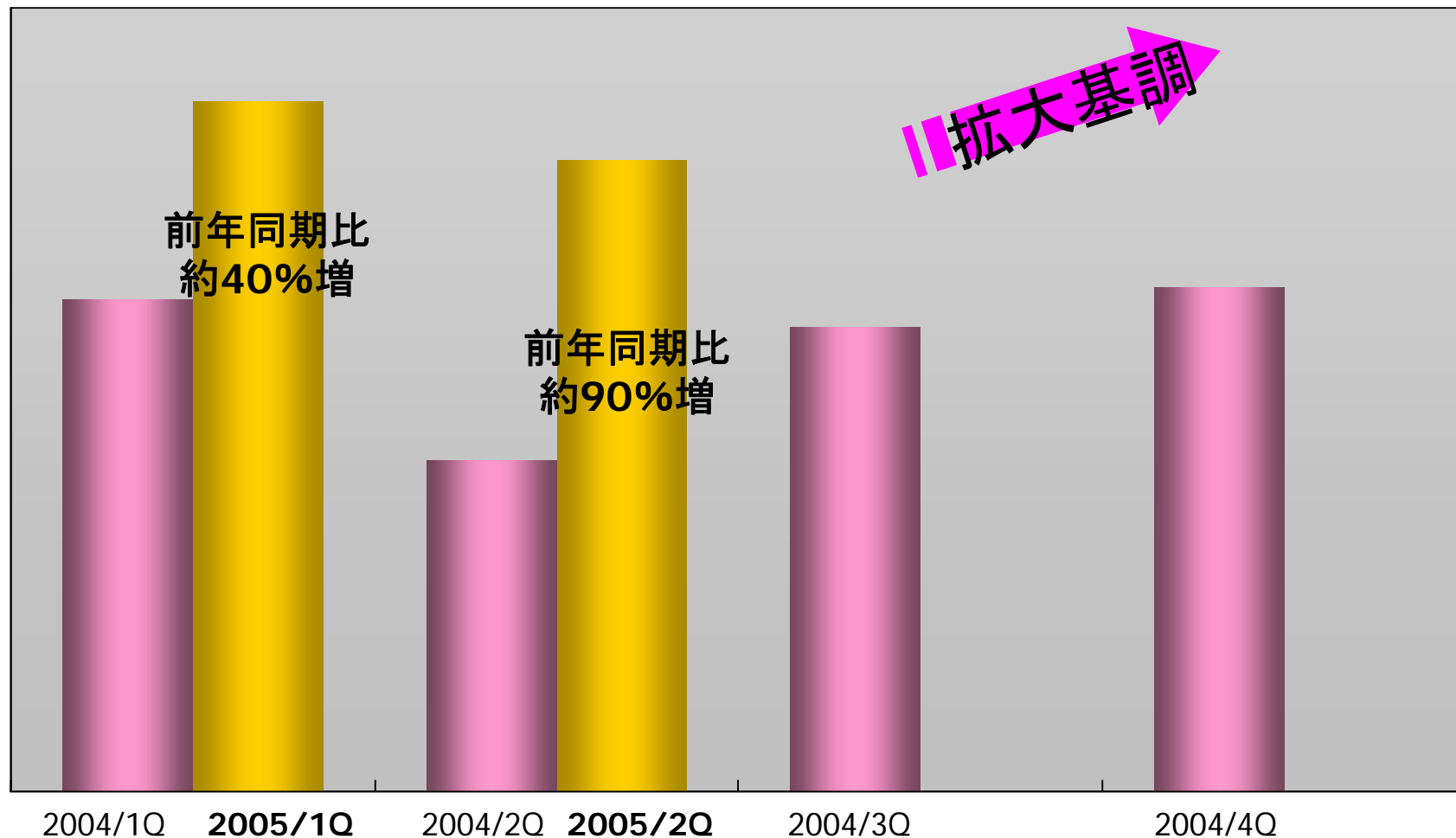
# 当社の「LifeKeeper」売上高の推移





# 当社の「Red Hat Enterprise Linux」契約数の推移

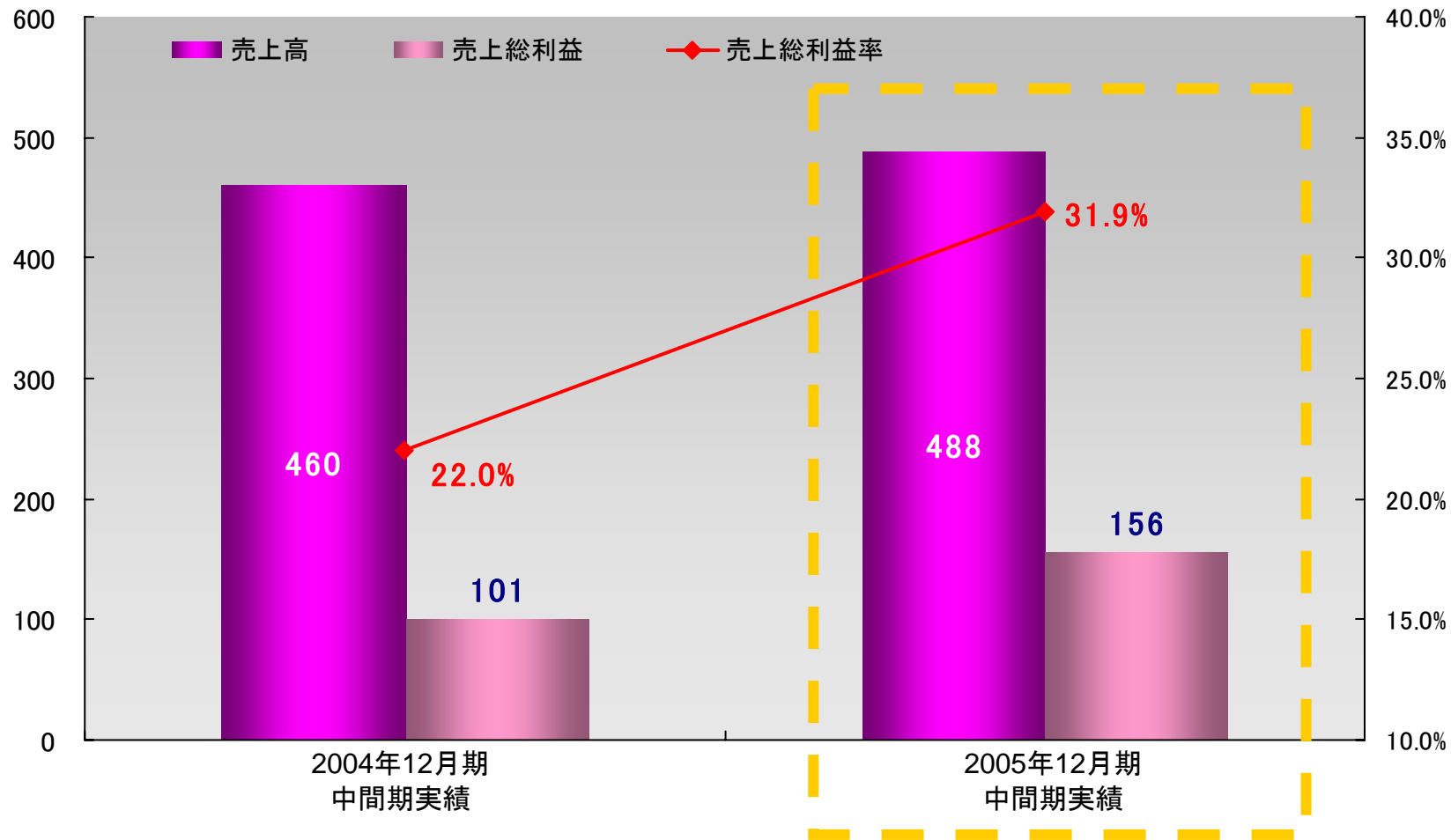
## — 四半期毎の獲得契約数 —



# 事業別売上高・売上総利益

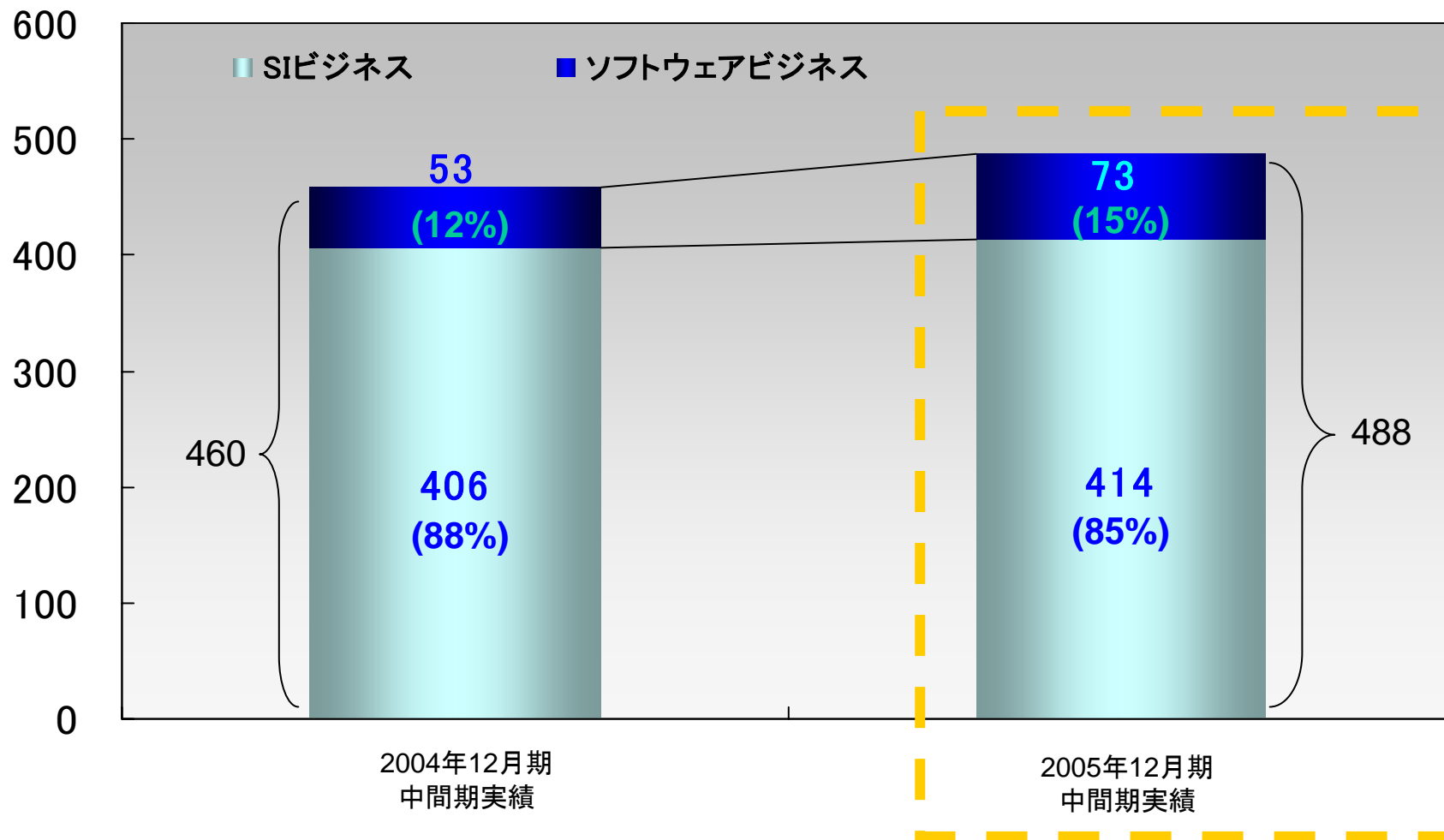
## Java関連事業

[単位:百万円]



# Java関連事業売上高の内訳

〔単位:百万円〕



# Java関連事業について

## ■ SIビジネス — Javaの受託開発、コンサルティング、教育

受託開発において利益率の改善を優先し、体制強化を図り、中規模案件に特化した結果、売上高は前年同期比2.0%の増収となった

## ■ ソフトウェアビジネス — 当社製品のWebシステム開発ソフトウェア販売

当社が開発したWeb環境対応型帳票ソフトウェア等の販売拡大により、売上高は前年同期比37.2%の増収となった

# 2005年12月期 中間期末貸借対照表

〔単位：百万円〕

	2004年12月 中間期末	2005年12月 中間期末	増 減
流動資産合計	1,248	2,177	+929
固定資産合計	177	217	+39
資産合計	1,426	2,395	+969
負債合計	468	623	+154
資本合計	957	1,772	+814
負債及び資本合計	1,426	2,395	+969

# 2005年12月期中間期キャッシュ・フローの状況

〔単位：百万円〕

	2004年12月期 中間期 (04年1-6月)	2005年12月期 中間期 (05年1-6月)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△87	301
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増加額	△105	288
現金及び現金同等物の期首残高	254	757
現金及び現金同等物の期末残高	149	1,046

# 従業員の推移

【全社員(含む契約・派遣社員、除く取締役・監査役)】

[単位:人]

		2004年12月期 中間期末 (2004年6月末)	2005年12月期 中間期末 (2005年6月末)	前年同期比 増減	2004年12月期末 (2004年12月末)
技術		63	78	15	70
	Linux	22	37	15	30
	Java	41	41	0	40
営業		14	22	8	17
	Linux	8	14	6	10
	Java	6	8	2	7
マーケティング・事業開発		11	15	4	11
事務(含む社内システム部門)		17	25	8	19
計		105	140	35	117

# 2005年12月期業績見通し

〔単位：百万円〕

	2004年12月期 実績	2005年12月期 予想 (2月2日公表)	対前期比 増減率
売上高	3,848	4,620	+20.1%
＜Linux関連事業＞	＜2,824＞	＜3,592＞	+27.2%
＜Java関連事業＞	＜1,023＞	＜1,028＞	+0.5%
営業利益	250	315	+26.0%
経常利益	243	313	+28.8%
当期純利益	330	336	+1.8%



# 2005年度の基本戦略

- オープンソースソフトウェアサポートビジネス強化
- 新製品・新ビジネスモデルの開発
- 海外拠点の立ち上げ

〔2005年2月3日付当社決算説明会にて発表〕

# 基本戦略の取り組み状況(1)

## ■ オープンソースソフトウェアサポートビジネス強化

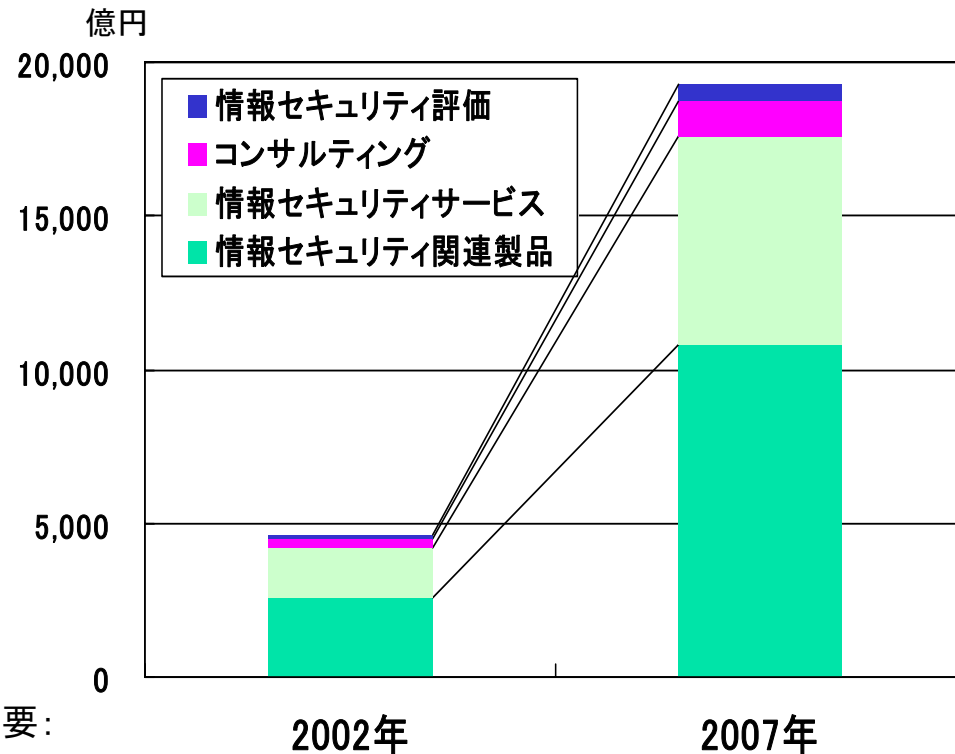


- ✓ セキュアOS「SELinux」ならびに「LIDS」の導入コンサルティング・サポート開始
- ✓ ソフトウェア知的財産の管理サービス開始

# 情報セキュリティビジネスの市場規模

## 「総務省情報通信白書」(平成15年度版)より

- 情報セキュリティビジネス市場は2007年に1.9兆円に成長すると予想
- 「セキュリティ確保のためのコンサルティング」の市場規模は2007年に1,161億円と2002年(289億円)の4倍に成長すると予想



(注)「セキュリティ確保のためのコンサルティング」の概要:

セキュリティポリシー策定・コンサルティング、セキュリティシステム設計・構築、リスク評価、セキュリティ教育・訓練等

# セキュアOS「SELinux」「LIDS」導入支援

## ■ テンアートニのビジネス戦略

### 〔背景〕

- ✓ 民間企業や官公庁のWebシステムへの不正アクセス・情報漏えい問題により、セキュリティへの関心が高まっている
- ✓ 政府が不正アクセス等の防止策として「セキュアOS」の導入を促進
  - ◆ 内閣官房情報セキュリティセンターが2005年7月に発表した「電子政府におけるセキュリティに配慮したOSを活用した情報システム等に関する調査研究」でセキュアOSの使用を促進
  - ◆ 経済産業省が2004年10月に発表した「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」でセキュアOSの使用を促進

# セキュアOS「SELinux」「LIDS」導入支援

## 〔セキュアOS(オペレーティングシステム)とは〕

- ✓ 強制アクセス制御機能や最小特権を中心としたセキュリティに配慮したOS

「2005年7月1日 内閣官房情報セキュリティセンター報告書より」

# セキュアOS「SELinux」「LIDS」導入支援

## 〔サービス対象〕

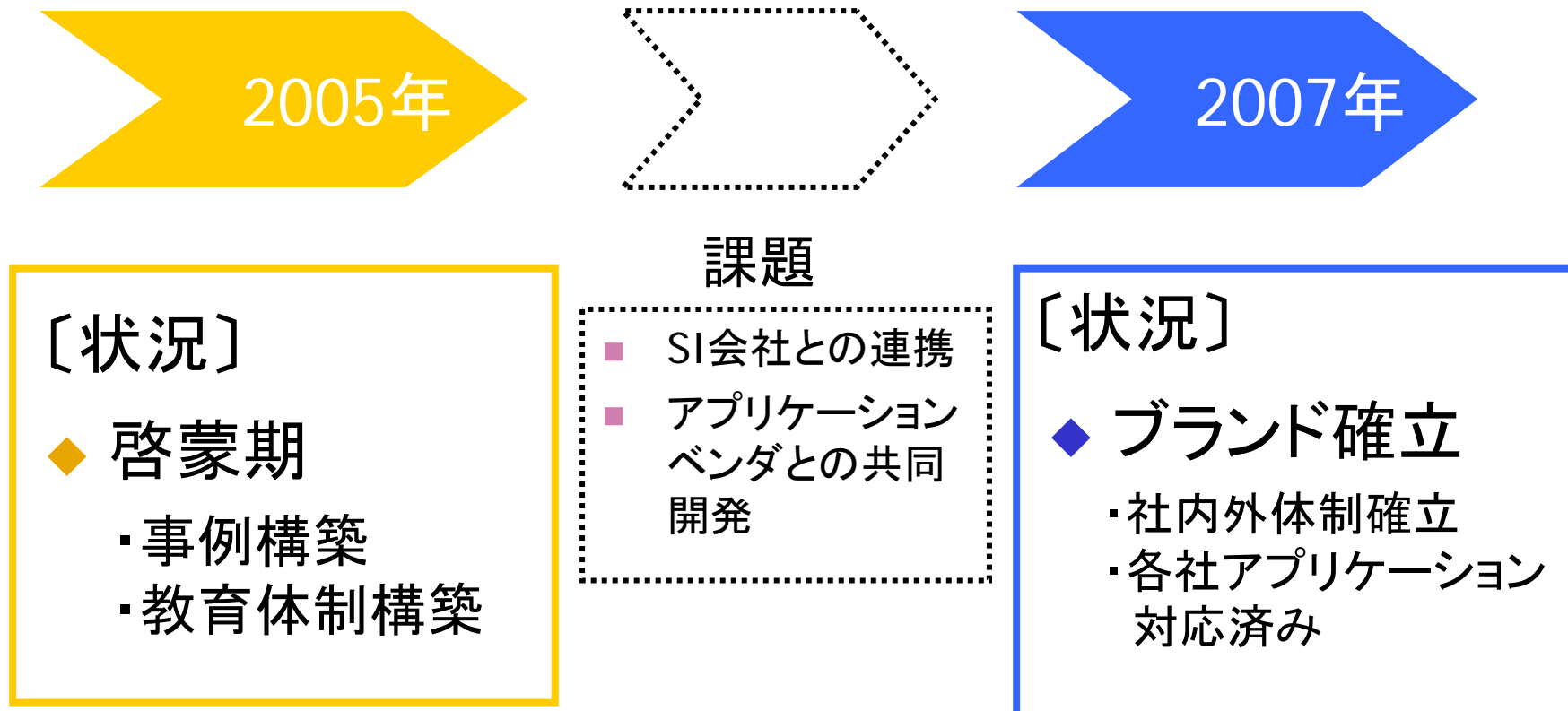
- ◆ SELinux
- ◆ LIDS

## 〔サービス内容〕

- ✓ セキュアOS導入のためのコンサルティングの実施
- ✓ SELinuxで必要となる各種ポリシーのカスタマイズ
- ✓ セキュアOS運用に関するサポート
- ✓ システム・インテグレータへのセキュアOS導入時のバックサポート

# セキュアOS「SELinux」「LIDS」導入支援

## ■ 今後の展望



# 基本戦略の取り組み状況(2)

## ■ 新製品・新ビジネスモデルの開発



- ✓ 業務アプリケーションパッケージ「TenArtni Enterprise Applications」シリーズを発表
- ✓ シリーズ第一弾として営業効率改善ソフトウェア「Sales Force Automation+」を販売開始



# 「TenArtni Enterprise Applications」

## ■ テンアートニのビジネス戦略

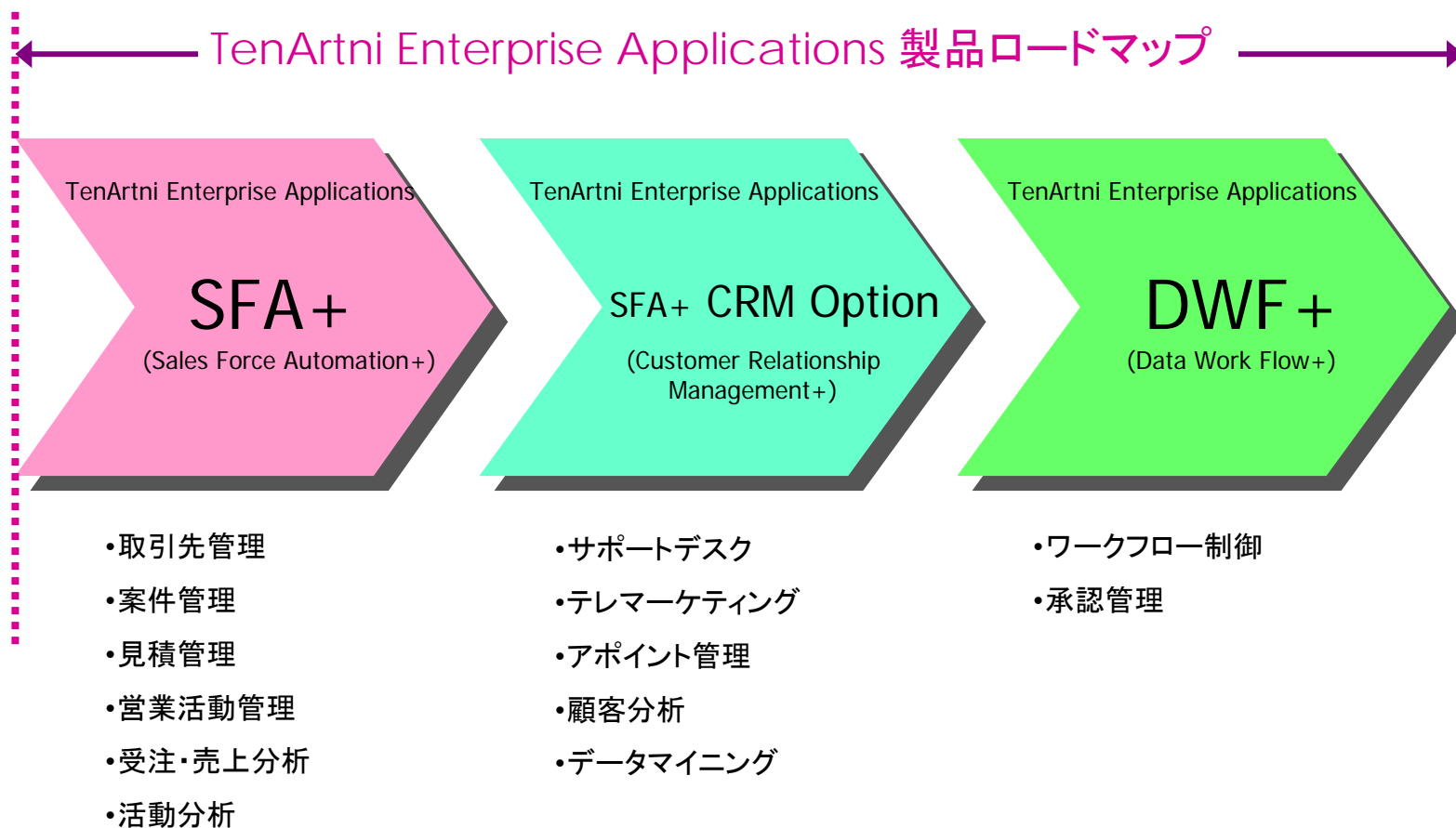
- ✓ 「TenArtni Enterprise Applications」は、オープンソースとして公開されているTenArtni Ninja-VA フレームワークをもとに開発された業務アプリケーションパッケージソフトウェアの総称
- ✓ TenArtni Ninja-VAを中心に従来の受託開発中心から業務アプリケーションへのビジネス領域の拡大を狙う
- ✓ 第一弾として「Sales Force Automation+」を販売開始。プロプライエタリソフトウェアであるが、ソースコードの配付オプションあり。
- ✓ 将来は、機能強化し、オープンソースソフトウェア版の開発を予定（サブスクリプション収入モデル）

# 「Sales Force Automation+」

- 中小企業向けに最適化
  - ✓ 数値管理に焦点を置いた設計
  - ✓ カスタマイズが容易で、短納期、ローコストで導入可能
- 中小企業市場に強いSIパートナーと連携し、市場開拓
- 売上目標(販売および関連サービス)
  - ✓ 2005年12月期 30百万円
  - ✓ 2006年12月期 100百万円
  - ✓ 2007年12月期 300百万円

# 「TenArtni Enterprise Applications」製品ロードマップ

## ■ 開発予定の製品



# 株主還元策について

## ■ 株式分割の実施

- 1:2の株式分割実施(基準日2005年7月31日)
- 投資家層の拡大および当社株式の流動性の向上を図ることを目的に実施

## ■ 今年度末の配当の実施予定

- 早期の配当実施による株主還元の実現
- 配当は1株あたり500円(分割後)を予定

# ご注意

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。